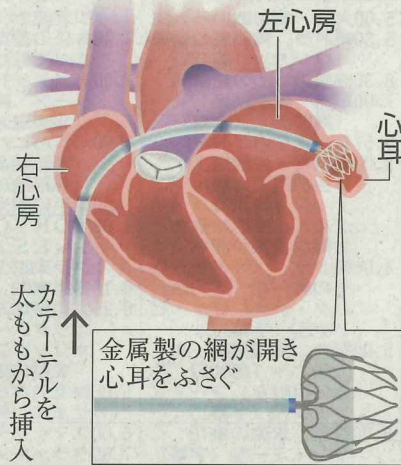




左心耳閉鎖システムの概要



心房細動患者の
血栓リスク抑止

「心耳」ふさぎ脳梗塞予防

重い脳梗塞を引き起こす大きな血栓を作る心房細動（悪性不整脈）を予防するため、多くの人が抗凝固薬を飲んでいますが、半面、出血傾向や大出血のリスクもあつて、服用できない人もいます。こうした人を脳梗塞から

守るため、血栓を作り出す心臓左心房の「心耳」と呼ばれる部分をふさぐ新たな方法が登場した。

東邦大医療センター大橋病院（東京）循環器内科の原英彦准教授は「知られていないが、心耳は心臓から飛び出ている親指大の袋。内部に複雑なひだがあり、血液がよどんで血栓ができやすい。心房細動の人の9割は心耳で血栓ができることが分かっている」と話す。これまで心耳を閉じる、切る、縛るなどの手術があつたという。

9月初めに登場したのは「左心耳閉鎖システム」と呼ばれ、

太ももの血管から左心房にカテーテルを挿入。先に付けた小さな帽子のような形をしたデバイスを心耳の穴（直径20ミリ前後）に埋め込んでふさいでしま

「金属の網でできている『帽子』は心耳の中で開いて穴をふさぐ。数カ月で上に膜ができて、抗凝固薬が不要になる」

既に欧州で10年以上の実績があり、安全性、有効性とも確認済みという。

原准教授は「脳梗塞が予防できて抗凝固薬も中止できる一石二鳥のメリットがある。対象は抗凝固薬を飲み続けられない人。飲んでいないのに脳梗塞を起こしている人など。従来の治療のみでは不十分な患者に光が当たる」と話している。